

# 酒文化研究所

## NEWS LETTER

第 69 号 2018 年 9 月 25 日

### 【市場トレンド】

## 酒類コンテストで市場を開拓

### －あらゆる酒類で活発化するコンテスト

ジャパニーズ・ウイスキーが世界的なウイスキーのコンテストで、長年にわたって好成績をあげてきたことは、現在の日本のウイスキー市場の活性化に大きく貢献しました。清酒でも多くのコンテストが開催され、入賞実績は、どれを選んでいいかわからないという消費者の商品選択をサポートしています。

ワインのコンテストも同様にメダル受賞ワインのコーナーを設けているワイン売場は珍しくありません。

花盛りの感がある酒類コンテストですが、今回はどんなコンテストがあるのかを酒類ごとに整理し、市場の開発や酒造技術の向上につながっていることを確認します。



ワイングラスで日本酒を飲むスタイルの普及を目的に開催される「ワイングラスで美味しい日本酒アワード」

【お問い合わせ】 本資料に関するお問い合わせは下記まで。

〒101-0032 東京都千代田区岩本町 3-3-14CM ビル

株式会社酒文化研究所（代表 狩野卓也）<http://www.sakebunka.co.jp/>

TEL03-3865-3010 FAX03-3865-3015

担当：山田聡昭（やまだ としあき）Eメール：[yamada@sakebunka.co.jp](mailto:yamada@sakebunka.co.jp)

## ■英国のコンテストが目立つウイスキーのコンテスト

ウイスキーのコンテストはスコットランドを抱える英国で開催されるものがよく知られています。「[インターナショナルスピリッツチャレンジ \(ISC\)](#)」では、サントリー『響』『山崎』『白州』をはじめ、多くのジャパニーズ・ウイスキーが度々最高賞を受賞してきました。酒類専門の出版社のドリンクス・インターナショナル社が主催します。ウイスキーやワインでは、出版社がコンテストを主催する例が多く見られます。また、蒸溜酒だけでなくワインまでカバーするのは「[インターナショナルワイン アンド スピリッツ チャレンジ \(IWSC\)](#)」です。「焼酎」部門もあり、日本から芋焼酎や麦焼酎が出品され、最近では焼酎メーカーがつくるジンなどのスピリッツも入賞しています。そのほか「[ワールドウイスキーアワード](#)」は出品された国内で予選があり、世界大会に進む独特のスタイルで選考されます。このコンテストはウイスキーに限定したコンテストである点も特徴です。そしてアメリカを代表するコンテストの「[サンフランシスコワールドスピリッツコンペティション](#)」は審査員に酒造技術者だけでなく、ユーザーに近いレストランや専門店のバイヤーが加わる点が特筆されます。ジャパニーズ・ウイスキーはいずれのコンテストでも高く評価され、品質の高さが世界で広く認知されることとなりました。



サントリーはISCで最高賞を何度も受賞してきた

### ■ウイスキー・スピリッツ

	インターナショナルスピリッツチャレンジ (ISC)	インターナショナルワイン アンド スピリッツ チャレンジ (IWSC)	ワールドウイスキーアワード (WWA)	サンフランシスコワールドスピリッツコンペティション (SWSC)
主催 (発足年)	酒類専門出版社ドリンクス・インターナショナル (1995)	IWSCリミテッド (1970)	イギリスのウイスキー専門の雑誌『ウイスキー・マガジン』 (2007)	米国の酒類業界紙『テイスティング・パネル・マガジン』ほか (2001)
部門数	大分類で25部門あり、さらに細分化され250以上	大分類で36部門あり、さらに細分化され300以上	15部門	ウイスキー・スピリッツで30部門。カテゴリーはさらに細分化されている
出品数 (直近年)	約1500点	不明	550点	2469点
アワード	金、銀、銅に部門トップのトロフィーの4段階	官能評価と成分分析。最高金・金・銀・銅など6段階で評価	部門トップをワールド・ベスト・ウイスキー選出	最高金・金・銀・銅の4ランクで評価
審査員	各酒類の専門家によるブラインド・テイスティング審査	各酒類の専門家によるブラインド・テイスティング審査	ウイスキーの専門家がブラインドでテイスティング	米国のレストラン、流通のバイヤー、ジャーナリストなどによる審査
概要	世界で最も権威があり、影響力のあるスピリッツコンテストのひとつ	ワインとスピリッツのコンテストとして広く認知されている	ウイスキーだけのコンテスト。各国の予選を経てロンドンでの決勝審査会に進む	米国最大かつ国際的な蒸溜酒のコンテスト

## ■最古のビアコンテストは英国 最大規模はワールド ビア カップ

最古のビアコンテストと言われる英国の「[ザ インターナショナル ブルーイング アワード \(IBA\)](#)」は 1886 年にスタートし、通称「オスカー」と呼ばれています。現在は 2 年に一度開催され世界中から約 1000 点の出品があります。2011 年には小西酒造（伊丹市）の『[スノーブロンシュ](#)』が最高金賞を受賞し話題になりました。最大規模のビアコンテストは 8000 点を超える出品がある「[ワールド ビア カップ\(WBC\)](#)」で、アメリカのクラフトビールの業界団体（アメリカ ブルワーズ アソシエーション）が主催します。業界全体で品質の向上を図り、入賞をセールスにつなげることに成功しました。このほか欧州最大のビアコンテストである「[ヨーロッパ ビア スター \(EBS\)](#)」や日本の「[インターナショナル ビア カップ \(IBC\)](#)」があり、クラフトブルワリーを中心に腕を競っています。



多くのビアコンテストはビールのスタイルごとに部門が細分化され、審査カテゴリーは 100 前後であることが一般的です。そして審査は香味の良し悪しの評価はもちろんですが、そのビアスタイルらしさを競い、上位 3 点にメダルを授与します。

### ■ビール

	<a href="#">ザ インターナショナル ブルーイング アワード (IBA)</a>	<a href="#">ワールド ビア カップ (WBC)</a>	<a href="#">ヨーロッパ ビア スター (EBS)</a>	<a href="#">インターナショナル ビア カップ (IBC)</a>
主催 (発足年)	Brewing Technology Services Ltd (1886)	アメリカ・ブルワーズ・アソシエーション (1996)	欧州クラフトビール協会 (2002)	日本地ビール協会 (1996)
部門数	ビアスタイルとアルコール度数で分類された34部門	ビアスタイルで101部門	55部門	108部門
出品数 (直近年)	約1000点	8234点	約2000点	754点
アワード	各部門から金・銀・銅	同左	同左	同左
審査員	ビールやシードルの醸造家を中心	ビールの醸造家、醸造コンサルタント、販売業者、ビアジャーナリスト	ビアテイस्टングのエキスパート	ビールの醸造家、醸造コンサルタント、販売業者、ビアジャーナリスト
概要	英国で開催されている最古のビアコンテスト。現在は2年に一度おこなわれる。通称「オスカー」	2年に1度開催されているアメリカのビール業界団体が主催する世界最大規模のビアコンテスト	毎年開催される欧州最大のビアコンテスト	国内外のクラフトビールを対象とした日本のビアコンテスト

## ■ワインの国際コンテストは英国がリード

ワインのコンテストは、フランス農水省主催する「パリ農業コンクール(Concours General Agricole de Paris)」のワイン部門のように、古くからおこなわれているものもありますが、世界中から広く出品を募り、多数の出品を得るコンテストは英国がリードしています。ワイン生産国のコンテストはその国のワインに評価が偏るという意見もあり、一大消費国でありながらほとんどワインを生産していない英国が、コンテストの場として相応し

く、発展したと言われます。

双璧をなすのが「[インターナショナル ワイン チャレンジ \(IWC\)](#)」と「[デキャンタ ワールド ワイン アワード \(DWWA\)](#)」です。どちらも部門は細分化されており「IWC」では生産国とワインのタイプでカテゴリーが分かれます。世界中から 1 万点を超えるワインが出品され、ワインの専門家たちがブラインドで審査します。スコアに応じて金・銀・銅などの入賞ランクが決まるため、スコアが低ければそのカテゴリーは「金賞該当なし」となることも珍しくありません。日本ワイン（ブドウの栽培から醸造・熟成・瓶詰まで日本国内でおこなわれたワイン）のカテゴリーでは、今年初めて部門最高賞であるトロフィーを受賞する商品が出ました。サントリーの『[登美 2013 赤](#)』の快挙です。



また、「日本ワイン・コンペティション」は日本ワインの品質の向上のために 2003 年に発足したコンテストです。出品は日本ワインに限定され、日本を代表するワイン醸造家に加えて海外の専門家が審査にあたり、国内で最も権威あるコンテストとなりました。「サクラアワード」は審査員が女性だけで、4000 点を超える内外のワインが出品されています。

■ワイン

	インターナショナル ワイン チャレンジ (IWC)	デキャンタ ワールド ワイン アワード (DWWA)	日本ワイン コンペティション	サクラアワード
主催 (発足年)	ウィリアム・リード・ピジネス・メディア社 (1984)	イギリスのワイン雑誌「デキャンター」 (2004)	日本ワインコンクール実行委員会 (2003)	一般社団法人 ワインアンドスピリッツ文化協会 (2014)
部門数	生産国とワインタイプで部門が細分化	ブドウ品種とブレンドなどで部門を細分化	12部門	6部門
出品数 (直近年)	10000点以上	約17000点	787点	4342点
アワード	金・銀・銅・奨励の4ランクで部門トップをトロフィーとして選出	100点満点でプラチナ・金・銀・銅の4段階	20点満点でスコアに応じて金・銀・銅・奨励の4段階。上限上位40%	ダブルゴールド、ゴールド、シルバーの3段階
審査員	マスターオブワインなど専門家をリーダーに審査チームを構成	同左	外国人審査員、国税庁、酒類総合研究所の専門家、各主要ワイン産地組合の代表、有識者等	ワインの製造や販売に従事する女性
概要	世界最大級のワインコンテストでSake部門をもつ	ワイン専門誌『デキャンタ』による世界最大級のワインコンテスト	日本ワインの品質向上を目指す、国内で最も権威のある大会	女性が“おいしく”、“料理に合う”、“コスバの良い”ワインを探すコンテスト

■清酒のコンテストは需要開発目的

「[全国新酒鑑評会](#)」は酒造技術の向上を狙いとして行政主導で 1911 年に始まりました。現在も多くの酒蔵がこのコンテストに出品しています。2000 年以降、民間の清酒コンテストが目立つようになり、「[全国燗酒コンテスト](#)」「[ワイングラスでおいしい日本酒アワード](#)」のように飲み方や飲用スタイルを啓蒙し需要開発を狙ったものや、市販されている酒で一番おいしいものを選ぶ「[ジャパン サケ コンペティション](#)」など、全国の酒蔵から 1000

点前後の酒が出品されています。

そのほか海外で開催されるコンテストも増えています。現在最も影響力があるのはワインコンテストとして前出の「[インター ナショナル ワイン チャレンジ \(IWC\)](#)」の SAKE 部門です。コンテストの海外での認知度が高いことから、入賞酒は在外日本公館でのパーティでよく採用されています。

そして海外でのコンテストは、現地のインフルエンサーの教育・啓蒙という観点でも注目されています。2017年にパリで開催された「[Kura Master](#)」はフランスの著名なソムリエが審査するコンテストで、彼らの SAKE の知識習得の絶好の機会となっています。海外では 600 点を超える SAKE をコンディションのいい状態で飲み比べる機会まずありません。また、審査員として関わることで SAKE と正面から向き合います。飲食の現場に立つソムリエがこ



入賞酒とチーズとSAKEのペアリング体験会もイベントも開催

うした経験をすることで市場開拓につながると考えられているのです。■

■清酒

	全国新酒鑑評会	全国燗酒コンテスト	ワイングラスでおいしい日本酒アワード	SAKE COMPETITION
主催 (発足年)	酒類総合研究所/日本酒造組合中央会 (1911)	酒蔵や酒類卸などで行う実行委員会 (2009)	酒蔵や酒類卸などで行う実行委員会 (2011)	はせがわ酒店や中田英寿氏で行う実行委員会 (2012)
部門数	1部門	熱燗、ぬる燗など4部門	大吟醸、純米、スパークリングなど4部門	純米、純米吟醸、ラベルデザイン部門など8部門
出品数 (直近年)	850点 (850蔵)	838点 (251社)	901点 (263社)	1772 (454社)
アワード	金賞・銀賞	最高金賞 (上位5%)、金賞 (上位30%)	同左	各部門10点が金賞、入賞 (予選通過) は約30%
審査員	酒造技術者を中心にメーカーや研究者	酒造技術者をリーダーに酒類流通、料飲店、酒ジャーナリストなど	同左	酒造技術者や蔵元、業界有識者など
目的	清酒の品質向上を目的に技術研鑽の場として開催。出品酒はコンテスト用につくった酒	燗酒についての啓蒙と飲用機会づくりを狙う。	清酒をワイングラスで飲むスタイルを普及させる。	日本一おいしい市販酒を選ぶ。料理に合わせておいしい日本酒の選択基準をつくる
	IWC SAKE部門(英国)	全米日本酒鑑評会(米国)	Kura Master(仏国)	SAKE CHINA(中国)
主催 (発足年)	ウィリアム・リード・ビジネス・メディア社 (2007)	国際酒会 (2001)	Kura Master運営委員会 (2017)	全米輸、中国食品工業協会、日本料理普及促進会 (2018)
部門数	純米、大吟醸、スパークリング、普通酒など規格別に9部門	吟醸を精米歩合で3区分、および純米酒の4部門	純米酒、純米大吟醸酒、にごり酒の3部門	大吟醸、純米大吟醸、吟醸・純米吟醸など5部門
出品数 (直近年)	1639点 (456社)	478点 (194社)	630点 (257社)	137点 (62蔵)
アワード	金賞・銀賞・銅賞・推薦のほか最高賞トロフィー	金賞・銀賞	上位30%からプラチナ賞、金賞を選出	プラチナ賞、金賞
審査員	ソムリエなどワイン及び酒に精通した専門家。半分は日本人	日米の酒造技術者や酒ジャーナリストが審査	フランスで活躍するソムリエ、ワインジャーナリストのみ	中国の若手のインフルエンサー 2000人
目的	清酒の海外市場の拡大	アメリカをはじめ海外の清酒市場開発	フランスの清酒市場を開発	中国の清酒市場の開発